

理科 第5学年 台風と天気の変化 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」について予想を基に調べる方法を考え、変える条件や資料の選び方の理由を表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(4)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：気象庁の時刻をそろえた台風位置・雲画像・雨の分布を地図で重ねて読む。続く時刻の図を伏せて予想し、実際の図で確かめる。台風を中心だけでなく広い範囲の雨にも目を向ける。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(4)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：いつも西から東へ同じように進むという説明には、台風の実際の進路を順にたどらせる。予想が外れたことを失敗にせず、雲や雨のどの変化を見落とししたかを記す 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(4)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。先の天気を根拠を付けて予想する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：台風接近時に屋外で観察しない。避難情報の判断を児童の授業予想に委ねず、公式情報と学校の対応に従う実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(4)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：気象庁の時刻をそろえた台風位置・雲画像・雨の分布を地図で重ねて読む。続く時刻の図を伏せて予想し、実際の図で確かめる。台風を中心だけでなく広い範囲の雨にも目を向ける。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全4時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「台風の動きと雨の降る地域には、どんな関係が見えるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。気象情報の使い方と安全な行動を整理する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

